

令和2年7月21日

学校法人三幸学園
大宮スイーツアンドカフェ専門学校
校長 増田 泰朗 殿

学校関係者評価委員会
委員長 槻山 厚平

学校関係者評価委員会実施報告

令和元年度学校関係者評価について、下記のとおり評価結果を報告します。

記

1 学校関係者評価委員

- ① 坂部 俊夫 (株式会社大宮コーヒーロースター 代表取締役)
- ② 長山慎太郎 (有限会社ヒューマンカウンシル 代表取締役)
- ③ 槻山 厚平 (第6期卒業生)

2 学校関係者評価委員会の開催状況

令和2年7月21日 (オンライン会議システムにて実施)

3 学校関係者委員会報告

別紙「自己評価・学校関係者評価報告書」に学校関係者評価委員会コメントとして記載

以上

2019年度 学校法人 三幸学園 大宮スイーツアンドカフェ専門学校専門学校 自己評価及び学校関係者評価報告書

自己評価報告責任者：副校長 小倉 裕子

学校関係者評価報告責任者：大宮スイーツアンドカフェ専門学校関係者評価委員会委員長 槻山厚平

1. 学校の教育目標

学園のビジョン「人を活かし、日本をそして世界を明るく元気にする」、ミッション「人を活かし、困難を希望に変える」のもと、製菓・調理分野の学校として「美味しくてかわいいスイーツとカフェを通じて日本を明るく元気にする」というビジョンを掲げている。

また「技能と心の調和」を教育理念とし「素直な心、感謝の気持ち、高い意欲を持ち続け、自ら考え、自ら行動することで、社会に貢献する人材」、製菓・調理分野として「美味しくてかわいいスイーツとカフェを通じて、時間と空間をトータルプロデュースし、人の心を豊かにする人材を育成する(全ては、お客様の笑顔とありがとうのために)を人物像とし、専門学校として社会・業界に求められる人材の育成を進めている。

2. 前年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画

- ・明確な目標の取り組み内容や結果を短期間のスパンで具体的に共有すること。
- ・皆精勤率、退学率の結果を踏まえ、精神的問題を抱える生徒の対策

① 前年度重点施策振り返り

・学年、クラス目標に関してはホームルームにて毎月振り返りの実施ができたが、結果を踏まえた教育を学校全体に広げることは難しかった。

・皆勤率や退学率については、単に数字を追うのではなく、現代の生徒にあった「授業の雰囲気(次回も受けたいと思ってもらえる授業展開)や「生徒との関わり方」を再検討して取り組んだ。

また、問題を抱える生徒1人に対して担任のみが対応するのではなく、複数の教員が係ることで解決につながれたケースもあったが、結果として目標としていた皆精勤率 53%と退学 7%については達成できなかった。

次年度も面談のタイミングや学校全体での取り組みとして更に強化できることを検討していく。

② 学校関係者評価委員会コメント

槻山委員長：皆精勤は本人の努力次第だが、退学は個人の心の強さや生徒間の人間関係にあると感じている。

坂部委員：目的意識の強い生徒もいるが、なんとなく来ている生徒もいると思うため、気づきを持たせると良い。5年後の自分などを想像させることが退学を減らせるのではないかと感じる。また、学校で様々なことを学ぶが、社会ではまだ通用しない状態であることを伝えるとよいと思う。

3.評価項目の達成及び取組状況

(1)教育理念・目標

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
学校の理念・目的・育成人材像は定められているか（専門分野の特性が明確になっているか）	4
社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	3
学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが生徒・保護者等に周知されているか	3
各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか	3

① 課題

・教育理念については入学時を中心に重点的に話をしており、浸透は図れているが人材育成像については十分な露出ができておらず、浸透まで至っていない

② 今後の改善方策

・年度はじめに人材育成像についての明確な成長フローを会議にて発信、生徒にも授業で伝えて浸透につなげる

③ 特記事項

・卒業までの長期目標、各学年の短期目標を成長フローとして作成

・新型コロナウイルス感染症防止に伴い行事の変更・中止の可能性はある

④ 学校関係者評価委員会コメント

・長山委員:「成長フロー」は自分が何を目指しているのか、次にどのような挑戦が待っているのかが生徒だけではなく保護者にとっても分かりやすい。

・槻山委員長:成長フローは生徒が受け身にならず、自覚が芽生えてよいと思う。

(2)学校運営

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
目的等に沿った運営方針が策定されているか	4
事業計画に沿った運営方針が策定されているか	3
運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか	4
人事、給与に関する制度は整備されているか	4
教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか	4
業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	4
教育活動に関する情報公開が適切になされているか	4
情報システム化等による業務の効率化が図られているか	3

① 課題

- ・シラバスは公開しているが、教育活動に関する情報公開については更に実施できる
- ・年々システムは向上しているが、更に業務の効率化ができる

② 今後の改善方策

- ・産学連携についての情報公開などもおこなう
- ・教員の研修を定期的実施する

③ 特記事項

- ・特になし

④ 学校関係者評価委員会コメント

- ・槻山委員長:コロナ渦の対策として、食べ物だけでなく若者向けの店内装飾等の提案ができるのではないか。
- ・坂部委員:SNS の技術を参考にしたいと感じることがあるのでそれを活かし、若い感性でのメニュー改革の実施をすると良いのではないか。
- ・長山委員:写真の撮影方法やハッシュタグの付け方について SNS が得意な若者から意見をもらい、お弁当や持ち帰りの仕方などを提案する。また、自宅でも調理をおこない SNS にアップするなどの仕掛けがあると面白い。

(3)教育活動

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	4
目標の設定として、教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた教育機関としての修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	4
学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	4
キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	3
関連分野の企業・関係施設等、業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	4
関連分野における実践的な職業教育(産学連携によるインターンシップ、実技・実習等)が体系的に位置づけられているか	4
授業評価の実施・評価体制はあるか	4
職業に関する外部関係者からの評価を取り入れているか	4
成績評価・単位認定の基準は明確になっているか	4
資格(免許)取得の指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	4
人材育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保し、組織できているか	4
関連分野における業界等との連携において優れた教員(本務・兼務含め)の提供先を確保するなどマネジメントが行われているか	3
関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか	3
職員の能力開発のための研修等が行われているか	3

① 課題

- ・教職員の先端的な知識については、研修予定であったがコロナの影響もあり、研修が中止になったため今後実施していく
- ・実践的な職業教育については、提携企業によって提案商品の幅が決まっているため検討が必要

② 今後の改善方策

- ・コロナが落ち着き次第研修を再開して取り組む
- ・提携企業の見直し

③ 特記事項

- ・特になし

④ 学校関係者評価委員会コメント

- ・坂部委員:新しくスイーツの店舗を展開予定。ローカルスイーツの開発を予定しており、地域密着型で考えている。学生からの提案をいただきたい。卒業生についてはコロナ渦で失業した方がいれば受け入れもしたい。
- ・長山委員:医療機関と連携を図り、一緒に調理をして医療従事者へ提供をするなどの取り組みは教育効果があるのではないか。
- ・槻山委員長:提携企業は地域密着型の方が生徒にわかりやすい。客層が狭いところの方が商品をイメージしやすい(若者向けのカフェなど)のではないかと。

(4)学修成果

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
就職率の向上が図られているか	4
資格(免許)取得率の向上が図られているか	4
退学率の低減が図られているか	3
卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	4
卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	3

① 課題

- ・退学率については、前年度からも増加している為早急に対策が必要である
- ・キャリア育成については、改善の余地がある

② 今後の改善方策

- ・HRにて、キャリア教育を取り入れる

③ 特記事項

- ・特になし

④ 学校関係者評価委員会コメント

- ・長山委員:様々な個性の生徒がいるため、「自分の強み」「社会に出て負けない NO1」を知る。そして、社会への活かし方を考える。それがいずれ個性になるため、取り組みを実施する。
- ・坂部委員:知識が大切。知らないことがあってもよい・恥ずかしく思わない若者が多いが、知らないことが恥ずかしいと気付いて欲しい。知識への好奇心を持てるような仕掛けが必要。予備知識が仕事を円滑にすることができるのではないかと感じる。
- ・槻山委員長:学校で学んだことが全てでは無いことを自覚させる。まずは相手(企業)の方針を実践し、学校での経験をプラスして活かしていくという順番を伝える。分からないことを聞けるようにすることが大切に感じる。

(5)学生支援

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
進路・就職に関する支援体制は整備されているか	4
学生相談に関する体制は整備されているか	4
学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか	4
学生の健康管理を担う組織体制はあるか	4
課外活動に対する支援体制は整備されているか	4
学生の生活環境への支援は行われているか	4
保護者と適切に連携しているか	4
卒業生への支援体制はあるか	4
中途退学者への支援体制はあるか	3
社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	4
高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか	3

① 課題

- ・就職支援については、担任中心になりがちであった
- ・卒業生の支援体制を活かしきれていない

② 今後の改善方策

- ・3ティーチャーズシステムを生かして働きかけをする
- ・卒業生訪問を行い、就職先の方に話を聞いて卒業生サポートを強化

③ 特記事項

- ・生徒 1 人に 3 万円の給付を実施

④ 学校関係者評価委員会コメント

・槻山委員長：自身が勤務していた時はサポートがなかった。特に遠方だったので会いに来てもらえると心の支えになる。知っている先生に会えると安心や達成感を感じることができる。（成長した姿を見てもらえると嬉しい）

・坂部委員：業態に合わせて生徒の方向性を示してあげるとより良い。各業態で求められているものと生徒の求めているものを合わせることで離職率が下がる。

長山委員：今までの就職活動と違い、「選ぶ」から「選ばれる」へ変化している。先輩の経験は通用しないこともあるので現状をしっかりと理解することが大切。生徒の「できる」と「やりたい」が合致しないことが多いので、自身と向き合い整理することが必要。

・小倉副校長：選ばれる人材、選ばれる学校になるにはどのような支援が必要か。

・長山委員：卒業支援を積極的にしている学校はあまり聞いたことがない。「自主練習」をしている学校は課題に向き合っており評判が良い。

・小倉副校長：卒業生が休日に学校へ来て練習するというのはどうか。

・長山委員：在校生と一緒に練習することでお互いに相乗効果となっている事例がある。

(6)教育環境

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	4
学内外の実習施設,インターンシップ,海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	4
防災・安全管理に対する体制は整備されているか	3

① 課題

- ・防災に関するマニュアルの作成や避難場所の確認はできているが、定期的な訓練までは実施できていない

② 今後の改善方策

- ・学期始めのタイミングを使い、教員、生徒ともに避難訓練の機会を設ける

③ 特記事項

- ・特になし

④ 学校関係者評価委員会コメント

坂部委員：誰でも「火」があがると焦ってしまう。清潔に保ち、燃えやすいものが散乱しないようにすることが大切。換気扇の汚れが火事の原因になるため、意外な所からも事故が起こることを知り、普段から構えておくことも必要。素材などの知識も覚え一生の財産にして欲しい。

(7)学生の受入れ募集

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
学生募集活動は、適正に行われているか	4
学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	4
入学選考は、適性に行われているか	4
学納金は妥当なものとなっているか	4

① 課題

・募集活動は適正に行われているが、平日の実際の授業見学希望者が少ない

② 今後の改善方策

・学校見学会、放課後の高校生と保護者向けのイベントのアピール方法を検討する

③ 特記事項

・特になし

④ 学校関係者評価委員会コメント

梶山委員長：SNSを使用した広報活動が効果的と感じる。

長山委員：地道な高校訪問などを実施している学校が多い。コロナ渦で飲食系の学校は厳しいと思うが、個別に対応をしていくと良い。

坂部委員：飲食業界の就職をしっかりと知ってもらい保護者の心構えも大切。保護者が生徒の足かせにならないようにしてあげるとよい。

小倉副校長：社会人経験がある専門学生は受け入れ側としてどうか。

坂部委員：社会人経験者のほうが社会人基礎力があり、就業継続できることもある。

長山委員：社会人としての心構えはプラスになることが多い。企業の受け入れ態勢が整っているところもあればないところもあるのでマッチングが大切。

(8)財務

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	4
予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	4
財務について会計監査が適正に行われているか	4
財務情報公開の体制整備はできているか	4

① 課題

【中長期計画】

なし

【予算・収支計画】

なし

【会計監査】

なし

【財務情報の公開】

なし

② 今後の改善方法

【中期計画】

現在、第2次中期計画(2018年度～2022年度)の対象期間中であるが、当該計画を着実に実行すると共に今後は当該計画の公開に向けて着手していく予定である。

【財務情報の公開】

・なし

③ 特記事項

・なし

④学校関係者評価委員会コメント

・特になし

(9)法令等の遵守

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
関係法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	4
個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	4
自己評価の実施と問題点の改善に努めているか	3
自己評価結果を公開しているか	4

① 課題

・自己評価に基づいた問題点の改善を実施する

② 今後の改善方策

・コンスタントに問題点の改善をおこない振り返る

③ 特記事項

・特になし

④ 学校関係者評価委員会コメント

・特になし

(10)社会貢献・地域貢献

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	4
生徒のボランティア活動を奨励、支援しているか	3
地域に対する公開講座・教育訓練（公共職業訓練等を含む）の受託等を積極的に実施しているか	3

① 課題

- ・生徒に対するボランティア活動の案内はまだまだ少ない
- ・地域に対する公開講座はできていない

② 今後の改善方策

- ・産学連携を活かしたボランティアなど開拓をする
- ・公開講座に向けて具体的に動く

③ 特記事項

- ・特になし

④ 学校関係者評価委員会コメント

- ・坂部委員：地域の施設（老人ホーム）等のボランティアが良いのではないかと。
- ・長山委員：ローカルテレビ局などと連携を取り公開講座をしている学校もある。保護者向けの講座を開講し身近なところからファンを作るのが良いのではないかと。
- ・槻山委員長：大宮という立地を活かして人目につくような取り組みをする。コロナ渦を活かし親子での講座などを開講する。

(11)国際交流(必要に応じて)

【評価項目】(評価=適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1)	評価
留学生の受入れ・派遣について戦略を持って国際交流を行っているか	3
受入れ・派遣、在席管理等において適切な手続き等がとられているか	3
学習成果が国内外で評価される取組を行っているか	3
学内で適切な体制が整備されているか	3

① 課題

留学生の受け入れは積極的にできているが、国際交流に対しての戦略を考えて取り組む必要がある

② 今後の改善方策

就職先の確保

③ 特記事項

・特になし

④ 学校関係者評価委員会コメント

・槻山委員長:留学生も楽しんで仕事をしていることが多いため、理屈ではなく楽しませながら教える取り組みを試みてはどうか。

・坂部委員:共同生活をしている方が多い。留学生同士のネットワークが強いのでそこを活かすると良い。

・長山委員:学校で授業以外のことも個別でアドバイスをしてはどうか。就職は大変厳しく、留学生支援を中止しているところもある。

4. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

委員の皆さまと積極的な意見交換を行い、自己評価に関してはほぼ問題がないとの認識で一致した。

特に学生支援や社会・地域貢献に関する意見を数多くいただいたので、いただいた意見をもとに、更なる教育の質向上、施設の改善に努め学校運営を行っていきたい。

また 2020 年度も引き続き、以下の点について重点的に取り組んでいく。

・学園のミッション・ビジョンの実現と製菓・調理分野のビジョンや教育理念・目指す人材育成像の実現に向けた取り組みを行い、多くの方に理解・浸透を図る。

・学生の主体性を育む教務の徹底(心の教育強化)

・社会貢献や地域貢献を含んだ教育の質の向上

・技術力の向上

・退学率減少